

所属	心理学研究科 臨床心理学専攻 修士課程	修了年度	2018 年度
氏名	大沼 愛	指導教員 (主査)	杉本 希映

論文題目	基本的心理欲求と Fear of Missing Out が SNS の過度の利用に及ぼす影響
------	--

本文概要

【問題と目的】近年、SNS への依存が問題視され（土井, 2014; 菊池・成田, 2016）, 教育現場では、予防教育の実践が行われている（鶴田・野嶋, 2015）。しかし、日本においてはその裏付けとなる SNS 依存の実態に関する研究は未だ少なく、さらなる研究が期待される。その中で、久保・坂田・清水（2015）は、SNS 依存を 2 側面で捉え、過度の利用は情緒的利用を喚起する傾向があり、情緒的利用は精神的不健康に関連するとしている。よって、早期の心理教育の方向性を考える上では、過度の利用をする者の背景を探ることが必要だと考えられる。海外では、SNS の過度の利用との関連が検討されている概念として、Fear of Missing Out (FoMO) がある。Przybuski et al. (2013) は、基本的心理欲求の充足の程度の低い者が、FoMO を高めることで、SNS を過剰利用するというモデルが立証されたとしている。日本における FoMO 研究は中村・佐柳（2018）のみであり、尺度の翻訳はされているものの妥当性の検討がなされていない。そのため、本研究では、研究 1 で尺度の信頼性・妥当性を検討した後に、研究 2 で Przybuski et al. (2013) のモデルが日本でも適応できるのかを検討する。

【方法】大学生を対象に無記名式質問紙調査を実施した。研究 1 有効回答数は、180 名（男性 102 名、女性 78 名、平均年齢 20.59 歳、SD=1.35）。使用尺度は、①フェイス項目②Social media engagement (Przybuski et al. (2013) を参考にして作成した) ③Fear of Missing Out scale (FoMOs) 日本語版 (中村・佐柳, 2018) ④日本版インターネットアディクションテスト (JIAT) (小田嶋, 1998) ⑤友人関係への動機づけ尺度 (岡田, 2005) ⑥気分調査票 (坂野他, 1994) の不安因子。なお、②・③については、3 週間後に同一対象者 51 名に再検査を実施した。研究 2 有効回答数は、198 名（男性 64 名、女性 134 名、平均年齢 20.56 歳、SD=1.72）。使用尺度は、①フェイス項目②Social media engagement③Fear of Missing Out scale (FoMOs) 日本語版 (中村・佐柳, 2018) ④心理的欲求充足尺度 (大久保他, 2003)。

【結果と考察】因子分析および内的整合性の検討 Social media engagement の天井効果が見られた 2 項目を除去し、残りの項目について因子分析（最尤法）を行った。その結果、Social media engagement で 7 項目 1 因子構造、FoMOs で 10 項目 1 因子構造が得られた。なお、Social media engagement が $\alpha=.84$ 、FoMOs が $\alpha=.82$ であり、十分な内的整合性を有していた。再検査信頼性の検討再検査法を用いて信頼性の検討を実施した結果、Social media engagement が $r=.90$ 、FoMOs が $r=.84$ であり、時間的安定性が確認された。併存的妥当性の検討 Social media engagement、FoMOs と理論的に関連の強い概念と考えられる変数との相関係数を算出した。その結果、両尺度共に関連の強い概念との関連が示され、一定の妥当性を支持する結果となった。仮説モデルの検討共分散分析を行った結果、自律性への欲求充足は FoMO を介して SNS の過度の利用へ間接的な負の影響があり、関係性への欲求充足は SNS の過度の利用へ直接的な正の影響があるということが示された。自律性および関係性の高低による 4 群と FoMO の関連 FoMO との関係性をさらに探索するために、自律性への欲求充足および関係性への欲求充足の平均値による高低によって 4 群に分け、FoMO の高低の比較を一元配置分散分析で行った。その結果、関係性への欲求充足が高い傾向があっても自律性への欲求充足が高いことで FoMO の高まりを抑制できるのではないかということが示された。よって、SNS の過度の利用を抑制するためには、自律性を促進し、自律性への欲求が充足されるような状況を目指すことが必要であると考えられる。今後の課題 FoMO はまだ歴史の浅い概念であるため、さらなる実証的研究が必要であると考えられる。